

釜山広域市の観光地における言語景観について

－釜山シティーツアーのコースにある公園を中心に－

趙恩英*
choeun215@gmail.com

〈目次〉

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. はじめに | 3.3 平和公園 |
| 2. 先行研究と調査概要 | 3.4 龍頭山公園 |
| 3. 調査の結果 | 4. 考察 |
| 3.1 UN記念公園 | 5. まとめ |
| 3.2 冬栢島(公園) | |

主題語: 言語景観(Linguistic Landscape)、釜山広域市(the Busan city)、公園(park)、多言語表記(multi-language marking)、観光地(Tourist Attractions)

1. はじめに

本論文は、韓国釜山広域市の観光地(主に公園)に見られる言語景観について多言語表記を中心に検討し、その特徴を述べるものである。特に、禁止・注意喚起の表現に注目し、その問題点とこれからの改善点を述べるものである。

最近、観光客の訪問により、様々な問題がいくつかの地域で起きているというニュースや記事をよく目にする。例えば、済州道の離島である飛揚島では船から捨てられたゴミが流れてきたり、島を訪れた観光客がゴミを捨てたりして、海の中や海岸沿いはゴミに覆われ、そのゴミの処理が問題となっている¹⁾。また、ソウルの有名な観光地である北村では押し寄せてくる観光客による騒音などに悩まされ、また、観光バスの不法駐車によって地域住民の駐車スペースがなくなったことでさまざまな生活上の不便が生じているという。

* 釜山外国語大学校 日本語創意融合学部 助教授

1) 2018年5月26日にMBCニュースで放送された「増えた観光客で済州の近海は海洋ゴミで問題(늘어난 관광객에 제주 근해 해양쓰레기 ‘몰살’)」からの内容である。

(http://imnews.imbc.com/replay/2018/nwtoday/article/4619947_22669.html 検索日:6月6日)

そのため住民側はソウル市にその対策を訴えるなどしており²⁾、観光客により住民の日常生活の平穏さまで脅かされているのが現状である。このような観光客により起こされている問題事と住民の苦情は韓国だけの問題ではなく、日本やヨーロッパなどの国で起きていることでもある。最近のニュースによれば、日本では観光客の急増に連れて多くなっている地域住民の不便さを無くすために外国人に税金を負担させようとしているそうだ³⁾。

観光客の増加は、少子化で町の活気をなくし人口が減り、最終的に町の存続まで懸念されている町にとって、町の衰廢を防ぐためのいい現象でもある。それによって観光客の訪問は経済的にも社会的にもよい面が浮かび上がり、政府の政策も観光客の増加のためにいろいろ工夫をし、様々な対策案が出されてきた。

しかし、上記したように、観光地といっても生活をしている住民がいて、これまで考えられていなかった問題が起きているのである。そこで、騒音やゴミの問題、交通機関の問題以外にどのような問題があるのか、これらの問題を防ぐためにどのような対策をしなければならぬのか疑問を抱く。

筆者は拙稿⁴⁾で大邱広域市の観光地に見られる言語景観について、多言語表記を中心に検討し、観光客の観光のためにより多く、整った多言語表記の必要性を主張した。では、他の地域における言語景観はどうなっているのだろうか。観光客の訪問により起きている問題は観光地を調査すれば分かることであるが、言語景観の観点からその対策を言及することができるのではないかと思っている。

そこで本稿では、釜山広域市の観光地の公園に見られる言語景観について多言語表記を中心に検討し、どのような特徴が見られるかその実態を明らかにすることを目的とする。観光客の観光のためのインフラと、住民の立場で苦情が出ている現象はなにかを見、これからの多言語表記にあるべき表現について探索的に考察する。

2) 2018年6月2日にSBSニュースで放送された「北村の住民達、増える観光客に悩み(북촌주민들 늘어나는 관광객에 '몸살」からの内容である。

(https://news.sbs.co.kr/news/endPage.do?news_id=N1004785700&plink=ORI&cooper=DAUM 検索日：6月6日)

3) 2018年4月11日にYTNニュースで放送された「日、外国人観光客に税金賦課「観光振興の目的」(日외국인관광객세금부과·관광진흥목적)」からの内容である。

(http://www.ytn.co.kr/_ln/0104_201804111932363789 検索日:6月6日)

4) 趙恩英(2017)「大邱広域市の観光地に見られる言語景観について一都心循環コースと近代文化路地の表記を中心に」『日本文化研究』第64輯、pp.293-331

5) 探索的とは未知の事柄などをさぐり調べることである。

2. 先行研究と調査概要

言語景観について庄司(2009)は「公共空間で目にする書き言葉を指している」とし、磯野(2013)は「看板や掲示物、ちらしやポスター、ラベルやステッカなど街中で自然と目に入る書き言葉」としている。

これまでの言語景観に関する研究は、ある地域における言語景観について社会言語学の立場から多く研究されている。日本の言語景観に関する研究は、藤井(2009)、加藤・澤(2009)などがあり、韓国の言語景観については、李(2011)、金(2011)⁶⁾、梁(2010a,b)、市島(2011)、磯野(2011)、瀧口(2015)などがある。観光地の言語景観を多言語表記に焦点を当て検討しているものは、趙(2017)以外にはあまりなされていない。

バックハウス(2009)は、ある場所の言語景観について、私的および公的表示の双方から創出されるものであり、世界の都市部はほとんどどこでも、店舗、会社、その他の事業体の私的表示で満ちあふれているとしながら、公的表示も、地名や街路名を知らせる表示、案内標識、地図板、公共マナーに関する禁止・注意喚起の知らせ文などは公的なものと指摘している。

本稿では、他の観光地より公的表示が多いと判断される公園を中心に、地名や街路名を知らせる表示、案内標識、地図板、公共マナーに関する禁止・注意喚起文などを検討する。

調査期間は2018年2月の2日間であり、調査方法は釜山シティーツアーバスに乗り、観光客の動線に沿って移動しながら、観光コースの案内表示や案内文、観光コース内の公共施設にある案内表示や案内文の写真を撮った。今回、検討の対象を釜山広域市の観光地における言語景観に焦点を当てたのは、釜山広域市が外に発信する市のイメージは「観光都市釜山」であり、釜山を観光都市としてアピールしているため、観光に関するインフラもある程度整備されていると推定されたためである。また、観光地の中で公園に焦点を当てたのは、住民が他の観光地より、身近に訪ねることが多いと判断したためである。地域住民が日常生活の中で頻繁に利用可能なところとして公園が挙げられ、さらに観光客の訪問も期待できる場所は公園であるからである。

検討の対象は、釜山シティーツアーのレッドライン(釜山駅↔海雲台)コース⁷⁾にある、

6) 金順仁(2011)は、言語景観における禁止表現に焦点を合わせ、日韓の禁止表現の使用様相の共通点と相違点を明らかにし、さまざまな禁止事項を挙げている。

7) 釜山シティーツアーの路線には、検討の対象であるレッドライン(釜山駅、UN記念公園、釜山博物館、龍湖湾遊覧船ターミナル、広安里海水浴場、アルピナ、マリンシティ、冬栢島、海雲台海水浴場、センタムシティ、映画の殿堂、市立美術館・BEXCO、平和公園、光復路)と、ブルーライン(海雲台↔海東龍宮寺)、グリーンライン(龍湖湾↔五六島)、イエローライン(海東龍宮寺↔機張市場)があ

UN記念公園、冬栢島(公園)、平和公園、龍頭山公園の4箇所である。

3. 調査の結果

観光地の公園の言語景観を検討する前に、公園に行くまでに見られる言語景観について少し述べる。

シティーバスに乗れる停留場には案内板<図1>が立っている。シティーバスの乗り場であることは「英語・韓国語」の2言語表記となっており、路線にある停留場の表示は「韓国語・英語・中国語・日本語」の4言語表記となっている。また、運行時間については「韓国語」の単一言語となっている。先行研究などの結果と同様に一つの案内板に多言語表記は統一されていないことが確認できた。



<図1> バス停

<図2> 注意事項

<図3> 交通弱者配慮席

<図4> 案内モニター

観光地を巡るシティーバスは2階建てバスであり、調査の時点で旧型バスと新型バスの2種類のバスが運行している。旧型バス内の座席の後ろには「乗車の際の注意事項」について「韓国語・英語・日本語」の3言語表記されている貼紙<図2>が貼ってあるが、新型バスの座席の後ろには何も貼られていない。新型バスが運行してどのくらいの時間が経っているかは分からず、仮に運行しはじめたばかりであれば、これから貼られる可能性もあるため、これについては言及できない。しかし、観光客の安全に関わるものなので、早めに処置が必要であるということと言える。

り、他に夜景ツアーのコースがある。また、釜山広域市で運営している「Dynamic BUSAN 문화관광」には、さまざまな推薦旅行コースがある。

次に、新型バスの内にある優先席のステッカー<図3>には「韓国語」で交通弱者配慮席という文字とピクトグラムが書かれているが、ピクトグラムからは交通弱者のための席だとは分かりにくく、お年寄りのための席のように読み取られる可能性がある。また、このステッカーは旧型バスにはないものなので、シティーバスとして運行している2種類のバスに見られる言語表現にも統一性がないことが確認できた。

そして、新型バスに設置されているテレビモニターに表示される停留場の案内<図4>や観光地の説明(アナウンス)も韓国語のみとなっているため⁸⁾、国内観光客には役に立つものの、海外観光客や国内に住んでいる外国人にはあまり役に立たないものと思われる。

3.1 UN記念公園

この節ではUN記念公園に見られる言語景観について述べる。

まず、正門から公園の中に入ると、管理室の前に配置されている案内パンフレットが見られる。そこには「英語」「日本語」「中国語」「トルコ語」「ハングル」で書かれている案内パンフレットが5種類ある。公園内で「韓国語・英語」の2言語表記がほとんどであるため、2言語以外の表記が見られるのはこのみである。



<図5> 案内文

<図6> 注意喚起

<図7> 禁止・注意喚起表示

公園全体の多言語表記は「韓国語・英語」の2言語表記となっている。例えば、公園の一角所にある案内文<図5>や、公園の正門前にある管理室に書かれている開放時間を知らせる

8) 言語景観は可視的な情報であるため、検討の対象ではないが、バス内に流れる停留場の案内や釜山観光地に対する物語などの案内は韓国語のみのアナウンスとなっている。海外から来韓する観光客についての配慮が欠如していると思われる。

標識、参拝客の遵守事項、「静粛」と書かれている石板<図6>、公園内を案内する標識は「韓国語・英語」の2言語表記となっている。

また、公園で守らなければならないマナーに関する禁止・注意喚起<図7>などは「韓国語・英語」とピクトグラムで表示されているが、ピクトグラムは分かりやすく表示されている。

UN記念公園は、韓国戦争に参戦し、戦死した派兵軍人を追悼するために作られた公園であり、その主旨に相応しい行動が必要であることがよく分かる。しかし、観光客の大部分を占めている中国人や日本人の観光客に対する言語サービスの支援がこの公園にはまだ至っていないことが調査で分かった。調査日にも、公園を訪れていた観光客の大多数が中国人と日本人であった。また、次の節で述べるが、他の公園には近所の住民の利用が多かったが、ここは住民の散歩などの利用はあまり見掛けなかった⁹⁾。

以上のように、UN記念公園は禁止・注意喚起文を含めた全ての言語景観が「韓国語・英語」の2言語表記で表示されていることが確認できた。

3.2 冬栢島(公園)

この節では海雲台区にある冬栢島についての言語景観を述べる。



<図8> 案内板

<図9> 案内図

<図10> 説明文

冬栢島は海外からの観光客の訪問も多いものの、地域住民の散歩や運動コースなど休息空間としても人気のある場所である。調査の当日にも公園内を犬を連れて散歩している周辺の住民の姿を多く見掛けた。住民のための近隣公園の性格が強いためなのか、公園内に

9) 公園内の警備している軍人二人に地域住民の利用や観光客の訪問の傾向について聞いた。

は禁止・注意喚起の表示は「韓国語」のみのものが目立った。「韓国語」の単一語のもの他に、<図8>のようにピクトグラムと「韓国語」で表示されている案内板が設置されている。

また、公園の案内図は、公園の入口の方と公園内に何カ所か設置されているが、その表記は「韓国語」の単一語のものと、<図9>のように「韓国語・英語」の2言語表記となっており、統一性は見られない。

特徴として、案内図や禁止・注意喚起の看板などの表記は、一目で分かるように表示されておらず、非常に小さな字で書かれているため、公園内の説明や禁止事項に対する対策になるのか疑問を抱く。

さらに、公園内の様々な場所に設置されている施設の案内文は「韓国語」の単一語表記となっているものが多い。しかしながら、公園名の由来に関する説明は「韓国語・英語・日本語・中国語」の4言語表記<図10>となっている。そして、道案内板の場合も「韓国語・英語・日本語・中国語」の4言語表記となっているが、道案内板は公園のみの特徴ではなく、他の地域や観光地で見られるものである。

このように、冬栢島は統一性のない多言語表記が多いことと観光客よりは地域住民に対する禁止・注意喚起の表示文が多いことが分かった。

3.3 平和公園

平和公園はその建立の経緯からも分かるように、観光客の訪問よりは地元の住民の休息の場所として愛されているようである¹⁰⁾。公園には公園内での禁止・注意喚起の看板が多く、多言語表記は多様である。

公園内に設置されている案内図に「韓国語・英語・日本語・中国語」の4言語で表示されているもの<図11>があり、区域に関する説明文は「韓国語・英語」の2言語表記のもの<図12>が設置されている。

また、公園で守るべきマナーについての説明が書かれている禁止・注意喚起の文は「韓国

10) 平和公園は2005年APEC頂相会議の際、主要人士の訪問地に含まれている場所である。元々公園の東南側の一帯は古鉄処理業、自動車整備業、貨物車駐車場、貨物の運送業などにより、騒音、粉塵、土壌の汚染を誘発する嫌悪産業51個の業体が乱立していたため、都市の美観を沮害していた。それで韓国戦争に参戦したUN軍の戦死者が眠っているUN記念公園と連携し、隣近の環境不潔地に平和の象徴の公園を造成し、自由守護の意を称え、かつ、住民の生活の質を向上させるために2004年6月平和公園の造成の計画を樹立し、2005年4月に着工し、開園したところである(訳は筆者)。

http://busan.grandculture.net/Contents?local=busan&dataType=01&contents_id=GC04213241 検索日:6月12日

語・英語・日本語・中国語」の4言語表記となっている<図13>。

特徴として、UN記念公園と冬栢島では見られなかった、緊急ベルの設置を知らせるものがある。公園内のトイレの入り口に女性や児童の安全のための「女性・児童の安心非常ベル」という緊急ベルの設置を知らせる案内板<図14>が「韓国語」とピクトグラムで表示されている。また、トイレ内の各間には「女性・児童の安心非常ベル」の使用案内が「韓国語」の単一語表記となっているが、その横には「韓国語・英語・中国語・日本語」の4言語表記で表示されているもの<図15>が並んで貼ってある。

さらに、公園内には禁煙区域であることがピクトグラムと「韓国語」の単一語で表示されている看板が見られる。

ここで興味深いものは<図15>のことである。なぜ同じ内容のように見られる案内板が並んでいるのかである。考えられるのは左の方を先に設置したものの、外国人観光客にはその案内板の意味が分からなかったため、右の方を後で設置したと推定される。しかし、案内板を一目で見て緊急時に使える安心ベルであることが分かるだろうか。



<図11> 案内図

<図12> 説明文

<図13> 禁止・注意喚起文



<図14> 安心非常ベルの案内

<図15> 安心非常ベルの使用案内

<図16> 禁煙区域の案内

本田・岩田・倉林(2017)が指摘しているように、ピクトグラムとは普通の絵とは違い、そ

れを見て何を意味するかが分からないといけない。注意事項などの案内板を作成したり管理したりする側は、ピクトグラムの使用に対し、より詳細な検討を行い、誰が見てもその意味が通じるようなものにしなければならない。従って、案内板の設置に工夫が必要だと考えられる。

3.4 龍頭山公園

龍頭山公園は、シティーバスの路線にはその名称が表示されていないが、光復路¹¹⁾というファッション関連の各種店舗や食堂街が密集している場所に位置しており、釜山のランドマークとして機能しているところである。

地元のお年寄には休息空間として、家族には休日の外出の場所として、カップルにはデートコースとして、観光客には釜山を象徴する観光スポットとして有名な場所である。このように多様な利用客に応じ、公園には多種多様な言語景観が見られる。

龍頭山公園に見られる最も目立つ表示は禁止・注意喚起のプレートや垂れ幕であり、特に公園内でのタバコの禁止を促す表記が非常に多い。<図17>と<図18>のようなプレートにピクトグラムと「韓国語・英語・中国語」の3言語表記で表示されている。



<図17> 禁止プレート

<図18> 禁止プレート

<図19> 禁止垂れ幕

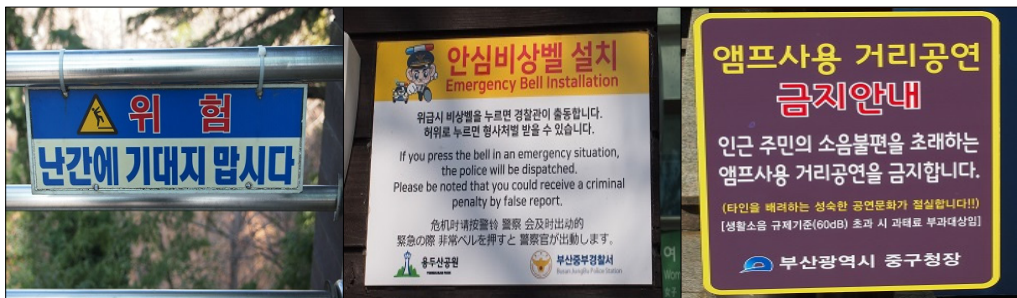
ここでプレートなどの設置側が考えてほしいことがある。それは公園内で喫煙した場合、「10万ウォン」の罰金が下されるということがプレートの表示からは分からないことである。罰金のことは、他の文字のサイズより小さな字で書かれており、さらに「韓国語」の単一語表記のみとなっているのである。

11) 光復路はシティーバスの路線にある観光地である。

喫煙した場合、罰金を払うという点を上記1章で述べた観光客による住民の被害の面から少し考えてみる。観光客による住民側の被害や、環境に与える負を防ぐためには、罰金のことを全面的に出す必要がある。間接喫煙による被害は言うまでもなく、環境的にも大きな問題だと思われる。

また、プレートのみではなく、公園内に設置されている垂れ幕<図19>にもピクトグラムと共に「韓国語・英語・日本語・中国語」の4言語表記で禁煙を促す表現が書かれているが、上記の案内プレートと同様に、罰金のことまでは翻訳されていない。

他に注意を促すプレート<図20>は、ピクトグラムと「韓国語」の単一語のみとなっている。韓国人には分かりやすいものの、外国人にはピクトグラムのサイズが小さく、一目で分かるのかが疑問である。



<図20> 注意のプレート

<図21> 案内プレート

<図22> 禁止のお知らせ

さらに、公園内のトイレの前に「安心非常ベル」が設置されていることを知らせる案内板<図21>が貼ってある。「安心非常ベル」の設置を知らせるメイン文字は「韓国語・英語」の2言語表記となっており、その詳しい説明は「韓国語・英語・中国語・日本語」の4言語表記となっている。メイン文字と説明の文が統一されていないことが気になる。普段、このような案内板をきちんと読むのかも疑問であり、非常時に一目で非常ベルであることが分かるかも疑問である。

また、アンプリファイヤ(増幅器)による町中での公演禁止を促す案内板は「韓国語」の単一語表記となっている。公演禁止のための案内板は韓国語だけでも充分ではないかと思われる¹²⁾。しかし、最近話題になっている外国人の物乞い(ベッグ行為)などを考えると、今

12) 2016年8月28日の韓国経済新聞に掲載された記事「20mごとに一チーム…町中の公演、夜中の「ボリュウム競争」(20m마다 한 팀…길거리공연 한밤 ‘볼륨 경쟁)」

後外国人による公園での公演もあり得るのではないかとされる¹³⁾。そのような現象が起きる前に先立って外国人も分かるように多言語表記に修正すべきだと思われる。

このように、他の公園より龍頭山公園では喫煙による被害が多いということが確認できた。

4. 考察

ここでは、公園にある禁止・注意喚起の表示について考察を行い、言語景観における禁止や注意喚起文の作り方について提案する。

まず、公園の禁止・注意喚起文を見る前に、<図23>を見てほしい。<図23>は、釜山広域市金井区のトゥシル(두산)駅の出口の前の道路に貼られている禁止・注意喚起文である¹⁴⁾。ピクトグラムと「韓国語・英語」の2言語表記となっている。上記の公園内にある禁煙のプレートや垂れ幕とは異り、罰金についての文句も多言語表記となっている。

このように、禁止事項についての多言語表記は最低限「韓国語・英語」の2言語表記で表示する必要があると考えられる。



<図23> 禁煙を促すステッカー

しかし、<図23>の一番下の文句である、「私のため、皆のために公共の場所では禁煙が

<http://news.naver.com/main/read.nhn?mode=LSD&mid=sec&sid1=102&oid=015&aid=0003646651> 検索日:6月8日)

13) 2018年5月3日にYTNニュースで放送された「物乞いにちょうどいい韓国?増える「ベッグパッカー(구걸하기 딱 좋은 한국? 늘어나는 ‘베그패커’)」http://www.ytn.co.kr/_ln/0103_201805302016401207 検索日:年6月8日)

14) 2018年6月6日に撮影したが、駅周辺のバス停にある待合のガラスにも貼られているステッカーである。

基本です(나를 위해 모두를 위해 공공장소에서는 금연이 기본입니다)」という表現は、<図17>と<図18>に書かれている「市民は禁煙を希望しています(시민은 금연을 희망하고 있습니다)」と同様に余計な表現のように思われる。

本田・岩田・倉林(2017:90)は、注意喚起の内容はストレートに伝わるのが重要であり、サインが多すぎると注目されなくなると指摘しており、サイン板内での注意内容を一つに絞ってはっきり書くべきであると述べている。つまり、上記のように、「私のため、皆のために公共の場所では禁煙が基本です」や「市民は禁煙を希望しています」などの表現は必要ではないということである。

それでは、どのような表記が必要であろうか。禁煙のための禁止・注意喚起の文は、禁煙した場合、罰金があることだけに焦点を絞った方がいいと思われる。「禁煙」という文字は多言語表記にせず、ピクトグラムだけにし、罰金の金額を多言語表示し、罰金があることに焦点を合わせるべきだと思われる。たとえば、<図8>も<図7>のように、ピクトグラムをより大きくし、韓国語で書かれている説明はなくてもいいのではないだろうか。<図20>もピクトグラムを大きくし、「注意」という文言だけを「韓国語・英語」の2言語表記にした方がいいと思われる。

また、<図14>、<図15>、<図21>の「安心非常ベル」の場合、ピクトグラムとは言えない絵を分かりやすいピクトグラムに交替すべきだと思われる。また、長い説明文の場合、時間をかけて読まなければならないものなので、禁止・注意喚起文や安全のための表示としては相応しくないと考えられる。

趙(2017)では、大邱広域市の観光地の言語景観において、統一性のある4言語表記にすべきことを述べたが、釜山広域市の公園にある案内図も4言語表記にすべきだと思われる。しかし、禁止・注意喚起文の場合は、より簡単に、より焦点を絞って作るべきであり、かつ、ピクトグラムのサイズを大きくし、ピクトグラムを適切に使うべきだと思われる。

観光客のためにも、地元の住民のためにも、言語景観に対する関心が必要であり、言語景観と関連する政策に携わる関係者の関心と積極的な行動が必要であろう。

以上のように、今回の調査の結果は、磯野(2011)が指摘している、ソウルの明洞と釜山の南浦洞の公共表記物は統一されていない多言語表記であること、高・温・藤田(2015)が指摘している、濟州道での多言語表記の多様性、趙(2017)が述べている、大邱広域市の多様な多言語による表記と、その傾向が以ていることが明らかになった。

趙(2017)でも指摘しているが、表示版や案内板を統一するには予算の面などを含めた言語政策の方針を考えなければならない問題があるため、関係者の言語景観についての感心

を呼び掛ける必要があると思われる。特に喫煙に対する禁止喚起と関連のある案内板やプレートの場合、罰金についてのことを目立たせ、禁煙効果を高める必要がある。

最後に、言語景観について考える際には2つの観点から考える必要がある。それは、観光地を訪れる人々が単純に海外からの観光客のみではないということである。本田・岩田・倉林(2017)が指摘している、サインの表示については、在住外国人と訪日観光客で異った対応が必要だ述べているが、前者については、「やさしい日本語」で情報を流した後に、特定の言語への翻訳をする手順を提示している。一方、後者については、観光客の母語による情報提供が最適であるが、観光客の数が増加し、彼らの使用する母語の多様化が予想され、単純な多言語化には限界があるとし、克服の方法として2つを挙げている。デジタルサイネージやスマートフォンを利用した「スマートサイン」の導入と、ピクトグラムの利用を述べている。

大邱広域市の観光地と同様に、今回の調査で統一されていない言語景観を確認したが、様々な案内板を統一し、再掲示するには多額の費用の発生や多言語表記の言語の選定における議論など、問題点が多いと思われ、既存の案内板にピクトグラムを付け加える方法を考えた方がいいのではないかと思われる。

5. まとめ

釜山広域市の観光地(主に公園)に見られる言語景観について多言語表記を中心に検討し、また、禁止・注意喚起の表現に注目し、その問題点と改善点について考察した。今回の検討で明らかになったのは以下のことである。

- (1) UN記念公園は「韓国語・英語」の2言語による多言語表記とピクトグラムが一緒に表示されている。
- (2) 冬栢島(公園)は「韓国語・英語・日本語・中国語」の4言語による多言語表記、「韓国語・英語」の2言語表記、「韓国語」の単一語表記が混在し、統一性がない。
- (3) 平和公園は冬栢島と同様に、統一性のない多言語表記が見られており、女性・児童のための「安心非常ベル」の設置を知らせるプレートがあったものの、ピクトグラムとして認められない絵が描かれている。

- (4) 龍頭山公園は禁煙を促す禁止喚起表示(案内板、プレート、垂れ幕)が多く、罰金があることについては単一語表記となっている。
- (5) 公園において多言語表記に統一性が必要であり、ピクトグラムの使用を増やすべきである。
- (6) 禁止・注意喚起の表示において、喫煙すると、罰金が下されるということを多言語表記で示す必要がある。

今後、公園以外の観光地について調査し、観光地に見られる言語景観について考察を進めていきたい。

【参考文献】

- 李舜炯(2011)「看板表記にみる現代韓国の言語景観-大阪広域市を事例として-」『世界の言語景観 日本の言語景観-景色のなかのことば』内山純蔵(監修)、桂書房、pp.38-53
- 磯野英治(2011)「韓国における日本語の言語景観-各都市の現状分析と日本語教育への応用可能性について-」『世界の言語景観日本の言語景観-景色のなかのことば』内山純蔵(監修)、桂書房、pp.74-95
- _____ (2013)「言語景観を日本語教育に応用する視点」『日語日文学研究』第86輯、韓国日語日文学会、p.3
- 市島佑起子(2011)「韓国地方都市の言語景観-釜山広域市の言語景観から見る地方都市の現状-」『世界の言語景観日本語言語景観-景色のなかのことば』内山純蔵(監修)、桂書房、pp.54-73
- 金順仁(2011)「言語景観における禁止表現に関する日韓対照研究-禁止項目による違いを中心に-」『日本語学研究』第20輯、韓国日本語学会、pp.71-87
- 庄司博史(2009)「多言語化と言語景観-言語景観からなにがみえるか」『日本の言語景観』庄司博史・P・バックハウス・F・クルマス(編)、三元社、pp.9-10
- 高民定・温琳・藤田依久子(2015)「韓国濟州島における言語景観-観光と言語の観点から-」『千葉大学人文社会科学研究』(30)千葉大学人文社会科学研究科
- 瀧口恵子(2015)「韓国の言語景観-大邱(テグ)市の地下鉄について-」『徳島大学国語国文学第26号』、pp.127-112
- 趙恩英(2017)「大邱広域市の観光地に見られる言語景観について-都心循環コースと近代文化路地の表記を中心に-」『日本文化研究』第64輯、東アジア日本学会、pp.293-313
- 藤井久美子(2017)「言語景観から考える観光と多言語状況」『宮崎大学教育文化学部紀要人文科学』第29・30号、pp.132-136
- 本田弘之・岩田一成・倉林秀男(2017)『街の公共サインを点検する』大修館書店、pp.71-80
- 梁敏鎬(2010a)「日本と韓国の言語景観に関する事例研究-公共施設のトイレとゴミ箱の表記について-」『日本語文学』第44輯、韓国日本語学会、pp.121-140
- _____ (2010b)「日本と韓国における大学ホームページの多言語表記に関する実態調査」『日本語文学』第47輯、韓国日本語学会、pp.47-64
- 加藤大鶴・沢温嬉(2009)「山形県村山地方における外国人旅行者を対象とした多言語サービス「安全な旅行」から「楽しめる旅行」へ」『日本語学』28-6、明治書院、pp.124-134

バックハウス(2009)「日本の言語景観の行政的背景-東京を事例として」『日本の言語景観』庄司博史・P・バックハウス・F・クルマス(編)、三元社、p.145

논문투고일 : 2018년 06월 19일
심사개시일 : 2018년 07월 17일
1차 수정일 : 2018년 08월 06일
2차 수정일 : 2018년 08월 12일
게재확정일 : 2018년 08월 16일

 <要旨>

釜山広域市の観光地における言語景観について

- 釜山シティーツアーのコースにある公園を中心に -

趙恩英

本論文は、韓国釜山広域市の観光地(主に公園)に見られる言語景観について、多言語表記を中心に検討し、その特徴を述べるものである。特に、禁止表現に注目し、その傾向を述べ、問題点とこれからの改善点を述べるものである。本研究の結果、以下のことが明らかになった。

- (1) UN記念公園は「韓国語・英語」の2言語表記による多言語表記とピクトグラムが一緒に表示されている。
- (2) 冬栢島(公園)は「韓国語・英語・日本語・中国語」の4言語による多言語表記、「韓国語・英語」の2言語表記、「韓国語」の単一語表記が混在し、統一性がない。
- (3) 平和公園は冬栢島と同様に、統一性のない多言語表記が見られており、女性・児童のための「安心非常ベル」の設置を知らせるプレートがあるものの、ピクトグラムとして認められない絵が描かれている。
- (4) 龍頭山公園は禁煙を促す禁止喚起表示(案内板、プレート、垂れ幕)が多く、罰金があることについては単一語表記となっている。
- (5) 公園において多言語表記に統一性が必要であり、ピクトグラムの使用を増やすべきである。
- (6) 禁止・注意喚起の表示において、喫煙すると、罰金が下されるということを多言語表記で示す必要がある。

A Linguistic Landscape of the Tourist Site in Busan

- Focused on the park in the Busan city tour course -

Cho, Eun-Young

This study examined a multi-language display on a linguistic landscape seen from the park, one of tourist sites in Busan, and described problems and improvements of the multi-language display by noticing expressions that especially call up prohibition and caution. The details revealed through this study are shown hereunder.

- (1) At UN Memorial Cemetery, a multi-language display by two languages (Korean·English) and pictogram are used together.
- (2) At Dongbaek Island (park), a multi-language display by four languages (Korean·English·Japanese·Chinese), two language display (Korean·English), and single-language display (Korean) are mixed and lack unity.
- (3) At Peace Park, a multi-language display of lack of unity just like Dongbaek Island is observed. There is a sign indicating a 'safety bell' for women and children is installed, but a picture which is not regarded as a pictogram is painted.
- (4) At Yongdusan Park, there are many prohibition signs (notice, plate, banner) that urge smokers to quit smoking, and a single-language display (Korean) for fines is used.
- (5) A multi-language display for the park requires unity and the use of pictograms should be expanded.
- (6) It is necessary to mark with a multi-language display about the fact that people are fined for smoking.